

具体的施策名	2006（平成18）年度実績	2007（平成19）年度計画等
配水池の落差による位置エネルギーを利用した小水力発電による未利用エネルギーの利用の推進 [水：水運用センター]	・江ヶ崎発電所：542,090kW/h ・鷺沼発電所：270,630kW/h	継続実施
新エネルギー導入・利用状況調査の実施 [環：地球温暖化対策担当]	継続実施	継続実施
新エネルギーの利用技術等の最新動向に関する情報収集 [環：地球温暖化対策担当]	継続実施	継続実施

## ■水循環

### 水循環

- 計画目標
- ・ 雨水の浸透等によって水の良好な循環構造が保たれていること
  - ・ 水資源が大切に利用されていること

### 現 状

#### ■指標：湧水地（2000年現在の湧水地の確保を図る）

1991年から1997年の湧水地の資料を基に、2000年度に98か所の湧水地を調査した結果、約40%の湧水地が枯渇又は消失していました。

2003年度に、多摩川水系の台地・丘陵地を調査したところ、199か所の湧水地を確認できました。調査では、自噴したり、河川の水源を形成したりする湧水は少なく、崖にたれているような、いわゆる「しぼり水」程度の湧水が多く見られます。

#### ■指標：市民一人当たりの家庭用水使用量（2000年現在の使用量より減らすことを目指す）

市民1人1日当たり水使用量は、1995年度をピークに減少傾向が続き、2006年度が247リットルと前年比で0.4%の減少となり、2000年度比では約6.4%の減少となりました。



年度別 生活水の1人1日当たり水使用量

年 度	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
使用量 (L/日/人)	264	260	259	250	250	248	247

#### ■指標：公共施設等における身近な水資源の利用件数（2000年現在の件数より増やすことを目指す）

雨水を貯留し、トイレ洗浄水等として利用する設備を1992年から小中学校3校に導入したほか、多摩区役所総合庁舎、川崎病院、多摩病院の6施設に中水道システムを導入しています。

#### 中水道システム

雨水や炊事、風呂の排水を浄化処理し、水洗便所、散水等に再利用するシステム。

## 主な施策の概要

具体的施策名	2006（平成18）年度実績	2007（平成19）年度計画等
--------	----------------	-----------------

### Ⅲ-4-1 水循環構造の保全

#### Ⅲ-4-1-1 雨水の利用・浸透の促進

##### 透水性舗装

河川への雨水流出抑制、地下水の涵養や街路樹の保護育成を図るため、雨水の一部を地下に浸透させることができる道路等の舗装。

##### 雨水浸透

雨水が地表から地中に浸入する現象を「雨水浸透」といい、その速度又は能力を「雨水浸透能」という。コンクリート化された道路等は浸透能が低く、雨水が浸透せず流出する。一方、農地（畑地）、樹林地等は、浸透能が高い。また、積極的な雨水浸透を図る施設を「雨水浸透施設」といい、浸透マス、浸透トレンチ、透水性舗装等がある。

##### 調整池

開発事業の実施による雨水流出量の増大がもたらす下流河川等への影響を軽減するため、大雨の際に、一時的に雨水を貯留し、調整しながら放流する施設。

歩道や公共施設等の整備における積極的な透水性舗装等の導入 〔ま：施設計画課、建：道路整備課〕	<input type="checkbox"/> 透水性舗装を採用した公共施設数：19か所（土0か所） ・多摩病院（2005年） ・川中島中学校（2005年） ・犬蔵中学校（2005年） ・宮前スポーツセンター（2005年） ・橘小学校（2005年） ・大戸小学校（2004年） ・久末ダイケアセンター（2003年） ・かわさき新産業創造センター（2002年） ・麻生図書館柿生分室（2002年） ・柿生小学校（2002年） ・南部生活環境事業所（2001年）他 <input type="checkbox"/> 透水性舗装を採用した施工面積（累計） ・透水性舗装施工総面積：320,323m <sup>2</sup> （+18,826m <sup>2</sup> ）	<input type="checkbox"/> 透水性舗装を採用した公共施設 ・東門前小学校 ・（仮称）黒川小中学校 ・（仮称）麻生複合福祉施設  <input type="checkbox"/> 透水性舗装の導入促進 ・透水性舗装施工計画面積：15,691m <sup>2</sup>
家屋、公共施設等への雨水浸透ますの設置の促進 〔建：計画課〕	—	—
大規模開発における雨水の浸透機能を有する調整池、雨水浸透施設等の設置の促進 〔建：河川課〕	<input type="checkbox"/> 指導件数、設置面積 ・雨水流出抑制施設 多摩川水系 指導件数：88件、貯留量：20,369m <sup>3</sup> 鶴見川水系 指導件数：63件、貯留量：6,916m <sup>3</sup> ・浸透性緑地 指導件数：41件、面積：15,592m <sup>2</sup> ・透水性舗装 指導件数：17件、面積：17,791m <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> 予定 雨水流出抑制指導基準等に基づく指導を継続実施 特定都市河川浸水被害対策法に基づく雨水浸透阻害行為の許可業務の実施
公共施設や民間施設における雨水貯留施設等の設置の推進 〔建：河川課、ま：施設計画課、環：環境評価室〕	<input type="checkbox"/> 指導件数、年間貯留量 ・公共施設における流域貯留浸透施設整備件数：5件、貯留量：3,895m <sup>3</sup> （川崎高校、古市場小学校、ホームレス自立支援施設、久地小学校、川中島中学校） ・開発事業に伴う雨水流出抑制指導指導件数：145件、貯留量：27,982m <sup>3</sup>	・東門前小学校 ・（仮称）黒川小中学校 ・中原消防署 ・（仮称）麻生複合福祉施設
地下水保全計画に基づく、計画的、総合的な施策の推進 〔環：環境対策課〕	<input type="checkbox"/> 取組状況 「川崎市地下水保全計画」に基づき、「地下水保全計画推進委員会」を開催し、委員相互の協力により、健全な水循環の保全を推進している。 ・湧水地周辺整備2か所	<input type="checkbox"/> 予定 ・地下水保全計画推進委員会において、委員相互の連絡を図り、健全な水循環の保全を推進する。 ・湧水地周辺整備を継承する。

#### Ⅲ-4-1-2 地下水流動の確保

地下空間の開発における地下水脈の分断の防止に係る指導の実施 〔環：環境対策課／環境評価室〕	<input type="checkbox"/> 指導件数：— 工事による地下水影響防止技術指針作成に向けた準備	<input type="checkbox"/> 予定 工事による地下水影響防止技術指針の作成
--	---	--

具体的施策名	2006（平成 18）年度実績	2007（平成 19）年度計画等
--------	-----------------	------------------

### Ⅲ-4-2 水資源の適正利用

#### Ⅲ-4-2-1 水資源の適正利用

<p>水資源の有効利用についての普及啓発による節水行動の促進 [水：総務課]</p>	<p>□普及啓発状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水道局広報紙「かわさきの水道」：年4回、新聞折込：1回45万部</li> <li>・水の週間行事の開催（かながわの水資源展）</li> <li>・水道局営業所で節水コマを有料（1個42円）で提供</li> <li>・検針票での水道事業のPR</li> </ul>	<p>□計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かながわの水資源展の開催</li> <li>・水道局営業センターで節水コマを有償で提供</li> </ul>
<p>公共建築物における雨水を利用した中水道システムの導入や地下水の利用の推進 [ま：施設計画課]</p>	<p>□システム導入件数</p> <p>◇中水道システム：6か所（±0か所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校3校（1992年度～）、</li> <li>・多摩区総合庁舎、・川崎病院</li> <li>・多摩病院</li> </ul>	<p>◇中水道システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮称）麻生複合福祉施設</li> <li>・（仮称）黒川小中学校</li> </ul>